

# 歯科を標榜していない病院における口腔ケアの取り組み

## THE SERVICE OF ORAL CARE IN A HOSPITAL WITHOUT DENTISTRY

伊 藤 恵 美

ITO Emi

キーワード：口腔ケア， 歯科標榜， 行動変容

Key words： Oral care, Dentistry, behavior modification

### 要 旨

医科歯科連携の中で歯科を標榜していない病院では入院患者の口腔トラブルは外部の歯科診療所に依頼して対応している状態である。そのため、日常的な口腔ケアは技術的な不安を抱えながら看護師が行っているのが現状である。本研究では、看護師の口腔ケアの技術支援を目的に歯科衛生士が介入した結果での看護師の意識と行動の変化を調査したので報告する。

### Abstract

A hospital without dentistry request outside dental office to visit in there, when a patient complain an issue related to oral region. So far, nurses have felt anxious for providing oral care because they do not have enough support in their hospital. In this research, I report how the supports of dental hygienist effect the behavior and attitude of nurse for oral care.



表1 臨床経験年数と口腔ケア経験年数

		口腔ケア経験年数					合計	
		～5年以内	6～10年	11～15年	16年以上	無回答		
臨床 経験 年数	～5年以内	度数 (%)	26 (96.3)	0 ( 0)	0 ( 0)	1 ( 3.7)	0 ( 0)	27 (100)
	6～10年	度数 (%)	1 (11.1)	7 (77.8)	0 ( 0)	0 ( 0)	1 (11.1)	9 (100)
	11～15年	度数 (%)	1 (12.5)	1 (12.5)	6 (75.0)	0 ( 0)	0 ( 3.7)	8 (100)
	16年以上	度数 (%)	6 (22.2)	2 ( 7.4)	2 ( 7.4)	16 (59.3)	1 ( 3.7)	27 (100)
合計		度数 (%)	34 (47.9)	10 (14.1)	8 (11.3)	17 (23.9)	2 ( 2.8)	71 (100)

る [4] [5]. 本研究では、看護師が口腔ケアに関してどのような不安や悩みを抱えているかを調査し、一定期間に歯科衛生士が口腔ケア支援として介入し、介入前後の看護師の意識と行動の変化の比較・検討を行った。

【対象および方法】

〔対象〕 福島県相馬市公立S総合病院に勤務する看護師71名

〔方法〕 歯科衛生士の介入期間は2017年3月～2019年3月である。各病棟の口腔ケアカンファレンスで解決ができない症例について、月1回の各病棟の口腔ケア担当看護師による口腔ケアチームの全体カンファレンスがある。そこに、歯科衛生士が参加し、問題の共有と整理を行った。さらにカンファレンス後に、歯科衛生士が病棟を巡回し、各フロアヘフィードバックを行い、問題解決のために介入した。この介入期間の前後に口腔ケアに対する意識と行動について看護師に対し質問調査を行った。質問調査項目は、図1の通りで独自に作成したものであり、無記名式とした。調査内容は、1. 看護師の口腔ケア方法の現状とニーズの抽出、2. 歯科衛生士介入後の看護師の口腔ケアに対する認識の変化である。

統計処理は解析ソフト SPSS Statistics21 (IBM社製) を用いた。

本研究は、入院患者の口腔ケア支援を連携・協力して行うことで、入院患者の誤嚥性肺炎などの予防、発症の減少を図り、入院患者の療養上の生

活の質の向上を目指すことを目的としたものである。この試みは、2017年1月1日に本学と公立S総合病院において締結された口腔ケア支援連携に基づくものであり、本学倫理委員会の承認を得て実施した (承認番号2810)。

【結果】

対象者の口腔ケア経験年数は、5年未満34名、6以上10年未満10名、11年以上15年未満8名、16年以上17名だった (表1)。質問3の「口腔ケアについて学習したことがありますか」では、介入前は70%で、介入後は80%だった (表2)。

口腔ケアに対する質問 (図2) では、質問4「口腔ケアは重要だと思いますか」は、介入前後ともに90%以上の者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答し、ほとんどの者が重要と認識していた。質問5「口腔ケアが効果的だと思うもの」では、介入前後ともに「誤嚥性肺炎」の回答が最も多く、次いで「口腔乾燥」「口臭予防」「摂食嚥下訓練」「う蝕・歯周病」の順に多かった (図3)。質問6「口腔ケアは難しいと思いますか」では、介入前後とも約90%が「そう思う」「だいたいそ

表2 口腔ケアの学習

		ある	ない	無回答	合計
実施前	度数	50	21	0	71
	(%)	(70.4)	(29.6)	( 0)	(100)
実施後	度数	57	13	1	71
	(%)	(80.3)	(18.3)	(1.4)	(100)

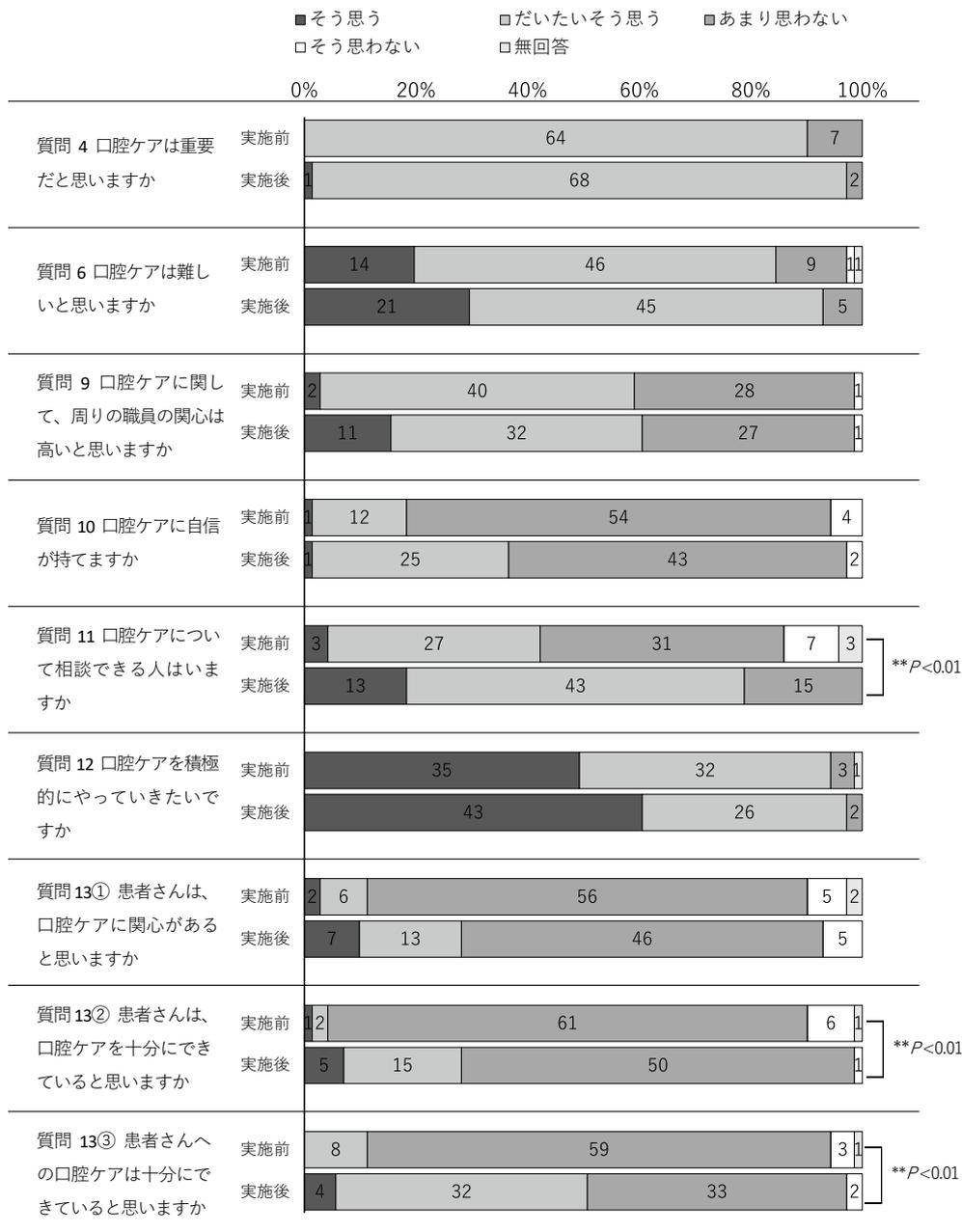


図2 介入前後の回答の比較

う思う」と回答し(図2), 質問7「口腔ケアが難しいと思うこと」の項目では, 口腔ケア経験年数別では, 介入前後とも5年未満が全ての項目で難しいと回答していた。介入前よりも全ての項目で, 介入後に減少はしているものの, 「口の開けさせ方」は介入前後共に高い回答であった(図4)。また, 質問8「口腔ケアで困っていること」の項目でも, 5年未満の選択項目数が多く, 「口腔乾燥」と「出血しやすい」は減少したものの「開口困難」と「舌苔清掃」は介入前後共に高い回答であった(図5)。

看護師の意識に関する質問では, 質問9「口腔ケアに関して, 周りの職員の関心は高いと思いますか」, 質問10「口腔ケアに自信が持てますか」, 質問12「口腔ケアを積極的にやっていきたいか」は, 「そう思う」が介入後増加し, 質問11「口腔ケアについて相談できる人はいますか」では, 「そう思う」「だいたいそう思う」が介入後, 増加( $p < 0.01$ )した(図2)。

看護師の行動の変化では, 質問13③「患者さんへの口腔ケアは十分にできていると思いますか」が介入後, 「そう思う」「だいたいそう思う」が増

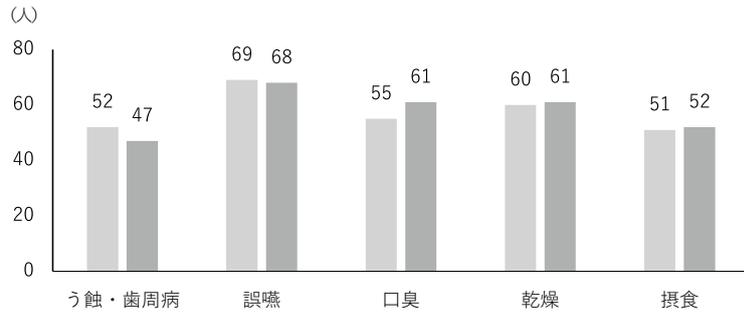


図3 口腔ケアが効果的だと思うもの（複数回答可）

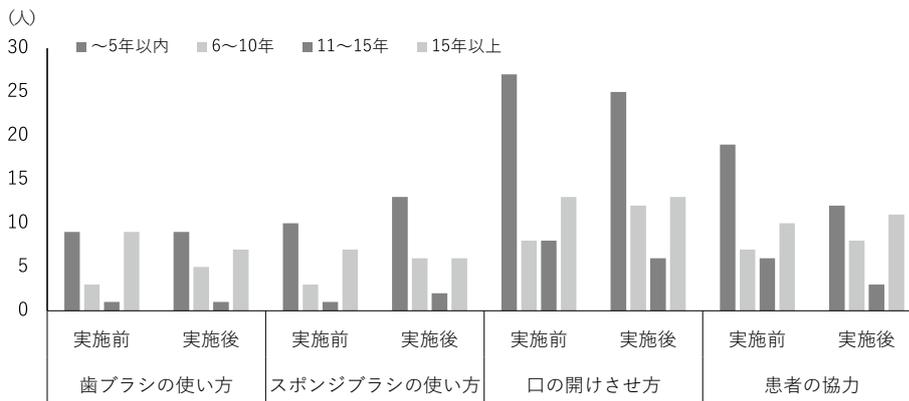


図4 口腔ケアが難しいと思うこと（複数回答可）

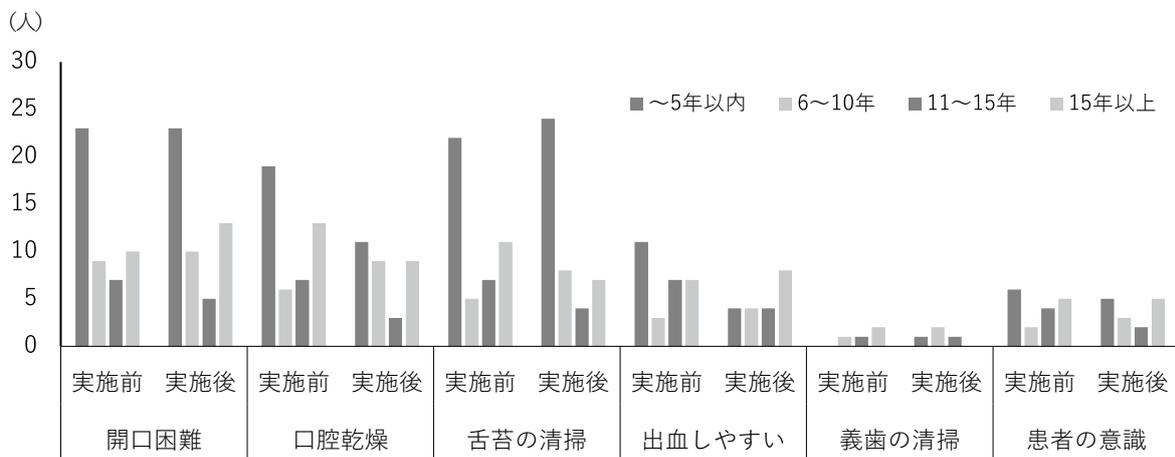


図5 口腔ケアで困っていること（複数回答可）

加 ( $p < 0.01$ ) した (図2)。

一方、患者の意識と行動変化については、質問13①「患者さんは口腔ケアに関心があると思いますか」は、介入後「そう思う」「だいたいそう思う」が増加した。質問13②「患者さんは口腔ケアが十分にできていますか」は、「そう思う」「だいたいそう思う」が介入後、増加 ( $p < 0.01$ ) した (図2)。

【考 察】

介入前の質問への回答から、口腔ケアの効果と口腔ケアへの重要性は感じ積極的にやりたいと思っているが、口腔ケアの難しさと自信がもてないことから、患者に対する口腔ケアが十分に出来ていないと感じている者が多かったと考察する。

表 3 a 「相談できる人」と「職員の関心」(介入前)

		そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
相談 でき ます か は	そう思う	1	2	0	0	3
	だいたいそう思う	0	18	8	1	27
	あまり思わない	1	15	15	0	31
	そう思わない	0	3	4	0	7
	無回答	0	2	1	0	3
	合計	2	40	28	1	71

表 3 b 「相談できる人」と「職員の関心」(介入後)

		$P < 0.05$	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
相 談 で き る 人	そう思う	5	6	2	0	13	
	だいたいそう思う	5	22	15	1	43	
	あまり思わない	1	4	10	0	15	
	合計	11	32	27	1	71	

「口腔ケアで困っていること」では、口腔ケア用具の使用方法などの器具の取り扱いではなく、症状や患者への接し方などの技術面に不安を感じていることが分かる。一方、「開口困難」「舌苔清掃」「義歯清掃」は介入後に増加しており、看護師が

患者の口腔をもっときれいにしたいという意識が向上し、回答が増加したと考察する [6] [7]。

一方、「相談できる人」と「職員の関心」の比較から、介入後の「そう思う」が増加 ( $P < 0.01$ ) し、看護師間での意識の変化がみられた (表 3 a,

表 4 a 「口腔ケアに自信」と「患者への口腔ケアはできている」(介入前)

		$P < 0.01$	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	そう思わない	無回答	合計
口 腔 ケ ア に 自 信 が	そう思う	0	0	0	0	1	1	
	だいたいそう思う	0	2	10	0	0	12	
	あまり思わない	0	6	46	2	0	54	
	そう思わない	0	0	3	1	0	4	
	合計	0	8	59	3	1	71	

表 4 b 「口腔ケアに自信」と「患者への口腔ケアはできている」(介入後)

		そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
口 腔 ケ ア に 自 信 が	そう思う	0	1	0	0	1
	だいたいそう思う	3	15	6	1	25
	あまり思わない	1	14	27	1	43
	そう思わない	0	2	0	0	2
	合計	4	32	33	2	71

表 5 a 介入前質問項目相関表

		臨床経験年数	口腔ケア経験年数	口腔ケアの学習	口腔ケアは重要	口腔ケアは難しい	職員の関心	口腔ケアに自信	相談できる	積極的にやりたい	患者の関心	患者自身が口腔ケアができている
口腔ケア経験年数	相関係数	.685**										
	有意確率 (両側)	.000										
	N	71										
口腔ケアの学習	相関係数	.053	.073									
	有意確率 (両側)	.662	.548									
	N	71	71									
口腔ケアは重要	相関係数	-.032	-.081	.096								
	有意確率 (両側)	.792	.500	.425								
	N	71	71	71								
口腔ケアは難しい	相関係数	-.028	-.014	.091	.029							
	有意確率 (両側)	.817	.907	.448	.813							
	N	71	71	71	71							
職員の関心	相関係数	.232	.210	.215	.020	.102						
	有意確率 (両側)	.052	.079	.072	.870	.396						
	N	71	71	71	71	71						
口腔ケアに自信	相関係数	-.073	-.209	.233	.187	-.262*	.287*					
	有意確率 (両側)	.545	.080	.050	.118	.027	.015					
	N	71	71	71	71	71	71					
相談できる人	相関係数	.143	-.002	.104	-.114	-.095	.191	.117				
	有意確率 (両側)	.234	.984	.389	.343	.433	.110	.332				
	N	71	71	71	71	71	71	71				
積極的にやりたい	相関係数	.072	.047	.184	.108	.128	.044	.172	.091			
	有意確率 (両側)	.550	.699	.125	.371	.288	.714	.152	.453			
	N	71	71	71	71	71	71	71	71			
患者の関心	相関係数	.006	-.014	-.185	.110	.151	.024	.043	.053	.297*		
	有意確率 (両側)	.963	.906	.123	.361	.209	.842	.724	.659	.012		
	N	71	71	71	71	71	71	71	71	71		
患者自身が口腔ケアができている	相関係数	-.128	.176	-.020	-.053	.007	-.044	.011	.259*	.005	.179	
	有意確率 (両側)	.289	.141	.869	.658	.954	.715	.927	.029	.969	.135	
	N	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	
患者への口腔ケアはできている	相関係数	.118	.311**	.014	.050	-.176	.041	.081	.219	.146	-.148	.392**
	有意確率 (両側)	.326	.008	.909	.682	.142	.735	.504	.066	.225	.217	.001
	N	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71

\*\* P<0.01

\* P<0.05

表 5 b 介入後質問項目相関表

		臨床経験年数	口腔ケア経験年数	口腔ケアの学習	口腔ケアは重要	口腔ケアは難しい	職員の関心	口腔ケアに自信	相談できる	積極的にやりたい	患者の関心	患者自身が口腔ケアができている
口腔ケア経験年数	相関係数	.529**										
	有意確率 (両側)	.000										
	N	71										
口腔ケアの学習	相関係数	.116	.069									
	有意確率 (両側)	.336	.569									
	N	71	71									
口腔ケアは重要	相関係数	-.014	.024	-.030								
	有意確率 (両側)	.910	.843	.806								
	N	71	71	71								
口腔ケアは難しい	相関係数	-.161	-.016	-.003	-.230							
	有意確率 (両側)	.180	.892	.978	.054							
	N	71	71	71	71							
職員の関心	相関係数	.060	.038	.002	-.030	.028						
	有意確率 (両側)	.617	.754	.987	.804	.819						
	N	71	71	71	71	71						
口腔ケアに自信	相関係数	-.160	-.253*	.155	.048	-.208	-.073					
	有意確率 (両側)	.182	.034	.197	.692	.082	.544					
	N	71	71	71	71	71	71					
相談できる人	相関係数	.076	.067	.037	.214	-.106	.362**	.043				
	有意確率 (両側)	.527	.577	.761	.073	.378	.002	.722				
	N	71	71	71	71	71	71	71				
積極的にやりたい	相関係数	.082	.145	.016	.216	-.101	.239*	.098	.263*			
	有意確率 (両側)	.497	.229	.895	.070	.404	.045	.414	.026			
	N	71	71	71	71	71	71	71	71			
患者の関心	相関係数	-.010	.062	.037	.030	.043	.059	.018	.172	-.042		
	有意確率 (両側)	.933	.610	.762	.803	.724	.625	.878	.152	.727		
	N	71	71	71	71	71	71	71	71	71		
患者自身が口腔ケアができている	相関係数	.066	-.183	.017	.041	-.014	-.106	.285*	-.208	-.049	.394**	
	有意確率 (両側)	.587	.127	.886	.737	.911	.380	.016	.082	.687	.001	
	N	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	
患者への口腔ケアはできている	相関係数	.150	.008	-.012	.185	-.198	-.006	.292*	.065	.160	.269*	.668**
	有意確率 (両側)	.212	.946	.924	.123	.098	.959	.013	.591	.181	.023	.000
	N	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71

\*\* P<0.01

\* P<0.05

b). また、「口腔ケアに自信がもてるか」と「患者さんへの口腔ケアは十分にできている」の比較では、介入後に「そう思う」が増え「思わない」が減った ( $P < 0.01$ ) ことと、介入前にみられなかったが、介入後は正の相関 ( $P < 0.01$ ) がみられ (表 5 a, b), 看護師の意識と行動の変化がみられた (表 4 a, b). 介入後は、環境と意識、行動がともに向上した理由として、看護師間で問題を共有することを徹底したことによる問題の共通認識ができたこと、問題に合わせた対応を歯科衛生士との病棟巡回を行い技術支援と解決が得られたことにより、口腔ケアのできる環境が整ったことで看護師の意識と行動の変化がみられたのではないかと考察する。

「口腔ケアは難しいと思いますか」の問いに対し、介入前後で大きな変化はみられなかったが、「口腔ケアが難しいと思うこと」の項目では、「乾燥」と「出血」が減少した。口腔乾燥への看護師の対応が出来ていたことから、粘膜からの出血も減少したのではないかと考察する。

本調査によって、看護師の口腔ケアに対する関心や必要性の認識は高く、悩みと不安を抱えながらも日常口腔ケアを実施しているが、歯科衛生士が関わり相談できる職種がいることにより、確認をしながら口腔ケアを行うことができ、自信につながったと考察する。

## 【結 論】

歯科衛生士が行う研修会の介入がきっかけとなり、口腔ケアに対する看護師の認識と行動の変化がみられた。今後も日常的な口腔ケアの意識・技術を維持・向上するために、これからも看護師への継続した支援が必要とされる。今後は、歯科の標榜の無い病院での歯科へ関りについて、歯科治療のみだけでなく、日常の口腔ケアの相談ができる歯科との連携が組めるシステムの構築が必要とされる。

## 【謝 辞】

この調査を実施するにあたり多大なるご協力を

賜りました相馬市公立S総合病院のスタッフの皆様  
様に心より感謝申し上げます。

## 引用文献

- [1] Takeyoshi Yoneyama, Mitsuyoshi Yoshida, Takashi Ohru, et al.: Oral care reduces pneumonia in older patients in nursing homes. JAGS MARCH 2002; VOL. 50: NO. 3: 430-433.
- [2] 厚生労働省ホームページ 医療施設(動態)調査・病院報告の概況 平成28年度.
- [3] 公益社団法人 日本歯科医師会 日本歯科総合研究機構 「病院における医科・歯科連携に関する調査」平成30年3月.
- [4] 北川一智, 安藤良平, 阪田悠美子, 他: 歯科を標榜していない病院における周術期口腔機能管理の取組. 日本静脈経腸栄養学会雑誌. 2016; 31 (5): 1153-1156.
- [5] 内田信之, 芝陽子, 平形浩喜, 他: 歯科のない地域中核病院における医科歯科連携の成果と現状. 日本プライマリ・ケア連合学会誌. 2017; vol.40.no.1: 16-20.
- [6] 柴田由美, 隅田好美, 日山邦枝, 福島正義: 歯科衛生士介入による病棟看護師の口腔ケアに対する認識変化. 日衛学誌 JJSDH. 2014; Vol.8 No.2: 70-83.
- [7] 横塚あゆ子, 隅田好子, 日山邦枝, 福島正義. 病棟看護師の口腔ケアに対する認識—病棟の特性および臨床経験年数別の比較—. 老年歯学. 2012; 第27巻 第2号: 87-96.